

# ICT化に望む内容、活用方法（グループワーク）

## 【本人に関すること】

- バイタル（8）
- 薬の処方情報と管理方法、服薬状況（8）  
必要時、内服の変更（2）
- 生活歴（6）
- 病名、病状（5）
- 家屋環境の情報（写真付き）（4）  
必要時、環境の見直しとアドバイス（1）
- 痛みの有無（3）
- ADLとIADL（3）
- 家族との関わり、キーパーソン（3）
- 嗜好、趣味と特技（3）
- 緊急連絡先（家族、病院等）（2）
- 本人の希望（具体的にどんな生活をしたいか等）（2）
- 日中の本人の状況（体調の変化）を知る事で、夜間の緊急時対応に備える（2）
- 入院前後での身体状況の差異（1）
- 介護認定の有無（1）
- 介護サービスの利用状況（1）
- 薬の効果状況（1）
- ターミナル期の状況（食欲、水分量、痛みの状態など）（1）
- 食事量（1）
- 排泄状況（1）
- 皮膚状況（1）

## 【業務に関すること】

- 検査データ結果の共有（6）
- 医師の所見（指導、制限や禁忌事項等含む）（3）
- 病状について医療機関、介護機関と情報交換、共有（3）
- リアルタイムの情報共有（3）
- 見守りシステム→本人、音声でのSOS発信（ケアマネ、病院等）（3）
- データのリアルタイムの共有（2）
- バイタルをリアルタイムで共有（2）
- 状態変化時、急変時の情報共有（2）
- 訪問診療ができる病院や医院を探したい（2）
- 独居での看取りもできるシステム（1）
- バイタル情報を医師に伝達（1）
- 多職種での連携（1）
- 支援の方針（1）
- 病院と訪問看護師の連携（1）
- 訪問ヘルパーと看護師の連携（1）
- 予後予測（1）
- 医師からのリアルタイムの指示（体調の変化に対応）（1）
- 医療画像（レントゲン等）の添付（1）
- 病棟での生活動作を動画で添付（1）
- ICTを面談に活用し、退院前より人間関係作り（患者—在宅部門）（1）
- 事業所への細やかな指示（1）
- 日々の状況について往診医、訪看、ヘルパー、薬局、家族が情報共有できる（1）
- ターミナル期を在宅で看取る場合の医師との連携（1）
- ターミナル期の状態変化が即時共有できる（1）
- ターミナル期の医師、病院看護師への情報報告（1）
- 各サービス事業所のサービス当日の利用状況（1）
- 医療機関の受け入れ状況（1）
- 施設、通所サービス事業所の受け入れ空き情報（1）
- インフォーマルなサービス情報（1）
- 在宅医（往診医）を明確にした状態で訪問看護を導入（1）
- カンファレンス（1）